

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年5月30日現在

機関番号：34509

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2009～2011

課題番号：21651106

研究課題名（和文）カンボジアにおける地雷回避教育プログラムの研究開発

研究課題名（英文）Research and development of mine risk education program in Cambodia

研究代表者

前林 清和（MAEBAYASHI KIYOKAZU）

神戸学院大学・人文学部・教授

研究者番号：10241168

研究成果の概要（和文）：

本研究は、地雷被害が続くカンボジアにおける地雷回避教育を推進するための研究である。まず、カンボジア北部地域、特にポイペト市において、地雷被害調査と地雷教育の実情を調査し、その不備も含めて明らかにした。そのうえで、実際の地雷回避教育プログラムおよび教材を開発した。開発した「地雷ノート」をポイペト市にある小学校3校の子どもたちに配布し、地雷回避教育を実施し、その効果を明らかにした。

研究成果の概要（英文）：

This research is the study of mine risk education in order to promote Cambodia. First of all, we, the northern part of Cambodia, in the city of Poipet, investigate the circumstances of the damage survey and mines landmine education, made it clear that such defect, including in particular. Next, we developed a mine risk education programs and materials. In addition, we distribute to children in three elementary schools in the city of Poipet the "Notes mine" developed, conducted mine risk education, made it clear that effect.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	600,000	0	600,000
2010年度	700,000	0	700,000
2011年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	2,000,000	210,000	2,210,000

研究分野：複合新領域

科研費の分科・細目：地域研究・地域研究

キーワード：カンボジア、地雷被害、地雷回避教育 地雷回避プログラム 地雷回避教材

## 1. 研究開始当初の背景

カンボジアはアジアのなかでも、最貧国のひとつである。カンボジアは、1970年のクーデターから1991年に和平が成立するま

での20年以上内戦が続き、その後、日本などの支援のもと復興が進められているが、それを妨げている大きな要因に地雷問題がある。

カンボジアは最も地雷被害の多い国である。地雷埋設数は約 600 万個といわれ、国土に対する地雷の割合は 1 平方マイルに対し 142 個と世界で一番その割合が高く、さらに、被害者の数は、236 人に 1 人の割合であり、世界でもっと被害率が高い。

カンボジアで被害者が多い理由は、地雷の多さとともに、識字率の低さと地雷回避教育の不十分さにある。カンボジアは、内戦時代、特に 1975 年から 1978 年にかけてポル・ポト政権下、大量虐殺のなか当時の教育者の約 90% が殺されており、現在でも教師不足が深刻な問題となっている。また、学校の未整備、給与の低さなどと相まって、初等教育すら困難な状況にある。識字率は、70% 程度であるが、農村部では 30% 程度といわれる。このことが、地雷被害を大きなものになっている。つまり、地雷の知識を持っているものが少なく、それを教える教師も、教える機会も少ないのである。子どもたちが地雷被害にあい、命を落とすという状況は、一刻も早くなくさなければならない。

地雷の埋設状況については国連や NGO などの支援団体が調査しており、単発の地雷回避教育はおこなわれているが、学術的な研究はなされておらず、体系的な地雷回避教育プログラムも構築されていないのが現状である。

本研究代表者は、以前からカンボジアの教育に関する研究を行うとともに、NGO の代表としても識字教育プログラムを現地スタッフとともに実践してきた。そのなかで、地雷回避教育の必要性を痛感し、本研究の着想に至ったのである。

## 2. 研究の目的

カンボジアにおける子どもの地雷被害を減少させるために、現地調査に基づいた地雷回避教育のプログラムと教育教材の研究・開発を行う。

カンボジア北部地雷原近隣の小学校 5 校において、地雷の被害状況と地雷に関するアンケート調査を実施し、児童の地雷に対する知識・意識・行動を明らかにする。

上記調査に基づいて、小学校における地雷回避教育プログラムを構築する。現地の地雷原を調査し、そのデータをもとに地雷原マップの開発を行う。

地雷回避教育プログラムのための教材の研究・開発し、試験的に学校教育に導入する。

## 3. 研究の方法

本研究の目的を達成するための具体的な研究方法は次の通りである。

研究の第 1 段階として、現地調査と現地小学生のアンケート調査を実施しつつ、国内においてプログラムやテキストのコンセプトを明確にし、資料収集にあたる。

第 2 段階は、カンボジアでは、教育プログラムの研究開発およびテキスト・教材の研究開発を実施する。



第 3 段階として、開発した教材を使い、実際に複数の小学校で子どもたちに地雷回避教育を実施し、その効果を検証する。

対象地域としては、カンボジア北部、ポイペト市周辺の地雷原および小学校。

#### 4. 研究成果

2009年、カンボジア北西部ポイペト近郊における地雷に関する調査を実施した結果、次のような成果を得た。

カンボジア全土の46%が地雷や不発弾が残され、年間100名以上の被害者を出している。

ポイペトでは、多くの地雷が埋まっているにも関わらず、地雷原に1メートル程度の盛土をして工業団地の造成を行っている。

日本の地雷処理機構が地雷除去を行っていたが、カンボジア政府の方針で、2003年からは、地雷除去はほとんど行われていない。2008年のポイペト近郊での地雷被害者は、死者24名、負傷者63名にのぼる。

2010年、カンボジアの小学生のための地雷回避教育プログラムと「地雷ノート」を開発した。地雷ノートは、地雷や不発弾の種類を写真で提示した。また地雷原に入ると地雷被害にあうということを身近な物語にし、絵本風にして、字が読めない子どもたちにも理解できるような教材とした。

2011年、地雷回避教育プログラムの試行を試行した。「地雷ノート」を使用した地雷回避教育プログラムを2011年8月1日から9月15日にかけてツール・ボンロー小学校 オルセイ・クラオム小学校 オルセイ・ルウ小学校において、研究協力者の栗本氏によって、小学4年生以上の生徒、約200名に実施した。その直後に、評価アンケート調査の実施：地雷回避教育プログラム実施小学校において、「地雷ノート」を使ったプログラム実施後に評価アンケートを実施した。主なアンケートの結果としては、「地雷ノート」の内容が分かりやすかったが8割を超えた。また、地雷の恐ろしさを理解したが、90%、今までに地雷を見たことがあるとい生徒が65%であ

った。また、ノートという形態が、生徒たちにとって実用性があり、有効であった。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔学会発表〕(計1件)

前林清和 カンボジアにおける地雷回避教育の必要性について 国際貢献研究会 2012,4,29 神戸学院大学

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

出願年月日：

国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：

発明者：

権利者：

種類：

番号：

取得年月日：

国内外の別：

6 . 研究組織

(1)研究代表者

前林 清和( KIYOKAZU MAEBAYASHI )

神戸学院大学・人文学部・教授

研究者番号：10241168